

わくわく地域連携教育だより

下関市教育委員会
第5号
令和6年8月28日

下関市の地域連携教育（安富浩CSチーフから）

下関市には、県教委所属の安富CSチーフと呼ばれる地域連携教育のスペシャリストがおられます。長年に渡り下関市の地域連携教育を支えておられます。その安富CSチーフからの寄稿です。お読みください。



●地域学校協働活動推進員の活躍

令和4年度より、地域連携教育が新体制で動き始めました。その中で、これまで「コミスク・コーディネーター」の呼称が「地域学校協働活動推進員（略称：推進員）」に変更されました。中には、関わりが10年を超える方々もおられ、地域連携教育の中核として「地域学校協働本部」の体制づくりに、そして、学校・家庭・地域の連携づくりにご尽力頂いています。組織の中でお一人おひとりがしっかりと学校・家庭・地域をつないでおられることに敬意を表したいと思います。

●熟議の実施・開催

夏休み中に、多くの中学校区において熟議が開催されました。どのような形態・内容で開催されているのか確認したいと思い、訪問させていただきました。



異校種間連携での熟議

- 1) 大規模校区で開催：100名を超える参加(子供や大人)
- 2) 暑さ対策を取った開催：公民館や教室活用(リモート)
- 3) 異校種間の連携で開催：小中高や総合支援も参加
- 4) タブレットを活用し開催：タブレットのウェブサイトに記入、XチャットやYチャットで意見整理
他グループの意見も見ることができ、スタンプ押しも可能に
- 5) ワークショップ的な開催：熟議をしながら、防災に係る体験も併せて実施

コロナ禍前の様子と大きく変容したことを感じました。子供たちの思いや意見を活かしたり（「参加」から「参画」の動き）、地域づくりに関わる機会を設定したりされ、地域住民とのつながりも増えてきているようです。何らかの形態で、より多くの学校や校区で、実践していただけるようになることを願っています。

●支援団体の多様化

地域学校協働本部において、より地域との連携が強くなってきたように思います。

下関市における「まちづくり協議会」をはじめ、多くの支援団体・組織と連携を取っていただき、地域の特長、工夫を凝らした活気ある活動やイベントが開催されています。



ほたるに係る川観察会



理科実験教室～ポンスン船～



「夢授業」～キャリア教育～